

Table with columns: 事務事業名 (地方公会計事務), 政策名 (G 効率的で市民にわかりやすいまちづくり), 担当 (総務部 企画課 財政係), 電話番号 (0285-83-8104), 施策名 (4 財政の健全化), 基本事業名, 法令根拠 (平成18年8月31日総務省事務次官通知「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針」), 事業期間 (単年度のみ, 単年度繰返 (開始年度 21 年度~), 期間限定複数年度 (年度~ 年度)), 予算科目 (1. 一般会計, 2. 総務費, 1. 総務管理費, 6. 企画費), 事業概要 (地方公会計は、新たに企業会計で採用されている発生主義の概念を取り入れることにより、これまでの予算書や決算書から読み取れなかった、資産と債務の対比や、減価償却を含む行政サービスに要した総コスト、資金の種類や年間変動の状況、行政サービスに対する世代間負担や、資産価値の変動などを明らかにしようとするもので、20年度決算から、次の財務書類の作成及び公表に取り組んでいる。【財務書類4表】普通会計ベース及び連結ベースの貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書【連結対象】特別会計9、水道事業会計、芳賀広域組合等一部事務組合2、農業公社等出資法人5【作成方式】総務省方式改訂モデル)

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

Main table with 4 columns: ①手段 (主な活動), ②対象 (誰、何を対象にしているのか), ③意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか), ④結果 (どんな結果(上位施策)に結びつけるのか). Each column contains detailed descriptions and associated activity/objective indicators with data tables for years 20-24.

(2) 総事業費の推移. Table with columns: 投入量 (事業費, 人件費), 単位, 20年度(実績), 21年度(実績), 22年度(実績), 23年度(実績), 24年度(見込). Rows include 国庫支出金, 県支出金, 地方債, その他, 一般財源, 事業費計(A), 正規職員従事人数, 延べ業務時間, 人件費計(B), and トータルコスト(A)+(B).

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等. Table with 2 columns: 質問 (e.g., ①この事務事業を開始したきっかけは何か? ②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどうか? ③この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?), 回答 (e.g., 平成17年12月24日閣議決定「行政改革の重要方針」、平成18年6月2日「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」等において、自治体における「資産・債務改革」の必要性が明示され、公会計の整備推進が要請される。)

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

| | | |
|---------|---|---|
| 目的妥当性評価 | ①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？ | <input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・財務諸表を作成することにより、適切な財政運営を目指すことができる。 |
| | ②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？ | <input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・国、地方を通じての取り組みであり、財政運営の基礎事務と位置づけられる。 |
| | ③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？ | <input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある ・財務書類の作成にあたっては、「新地方会計制度研究会報告書」を活用して、全国統一の事務として取り組むこととされている。 |
| 有効性評価 | ④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？ | <input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 「総務省方式改訂モデル」により財務書類を作成していることから、貸借対照表に計上される有形固定資産について、決算統計における普通建設事業費の累計額を、基礎として算定することが認められている。しかし、資産管理の効果を高めていくためには、より精度の高い固定資産台帳を整備していく必要がある。 |
| | ⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ | <input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない ・全国統一の事務であり、廃止できない。 |
| | ⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？ | <input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない |
| | ・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？ | <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない |
| 効率性評価 | ⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など) | <input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・職員による統計事務であり、特別の事業費はない。 |
| | ⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど) | <input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・財務書類作成のために必要な人件費である。 |
| 公平性評価 | ⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？ | <input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・受益者負担の対象外の事務である。 |

3. 改革・改善方向の部

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|----|-----|--|--|--|--|----|----|----|----|----|--|--|--|----|--|--|--|----|--|--|--|
| (1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続 公有財産台帳を段階的に整備し、貸借対照表の精度を高めていく必要がある。 | (3) 改革・改善による期待成果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？ | <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | | | コスト | | | | | 削減 | 維持 | 増加 | 成果 | 向上 | | | | 維持 | | | | 低下 | | | |
| | | コスト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 削減 | 維持 | 増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果 | 向上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 維持 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 低下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|-----|----|-----|--|--|--|--|----|----|----|----|----|--|--|--|----|--|--|--|----|--|--|--|
| (1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり | (5) 改革・改善による期待成果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) | <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | | | コスト | | | | | 削減 | 維持 | 増加 | 成果 | 向上 | | | | 維持 | | | | 低下 | | | |
| | | コスト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 削減 | 維持 | 増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果 | 向上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 維持 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 低下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (4) その他2次評価会議で指摘された事項 ・現時点では、会計基準の統一(基準モデル、総務省改訂モデル)や公有財産台帳の整備期限等が明確に示されていないため、向上性は見出しにくい状況にある。 ・当面は現状を維持することとし、国の動向には十分留意する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |